

令和5年度 自己評価表(中間)

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	各年度における目標値および実績値				評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和4年度	目標	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
主体的に考え、判断し、行動する力を育てる。	○進んで学び、粘り強く挑戦する力の育成 ○自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・カリ・マネによる単元構想と探究的な学びを促す授業を工夫する。 ・児童会活動の充実を図り、各委員会主催の児童朝会を行う。 	各学年1つ以上のプロジェクト展開	2/6 33.3%	目標	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間でばらつきはあるが、プロジェクトの進捗状況は平均で33.7%進んでおり、各学年ともプロジェクトに向けて活動中である。 ・児童朝会は3つの委員会が行い、それぞれ主体的に活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトに向けて、単元構想図に沿って児童の意欲を高めていく。 ・児童会委員会から各委員会に要望する形で、児童朝会を展開していく。
				各委員会1回以上	3/6 50%	目標	100%	100%		
豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く力を育む。	○豊かな心を育む教育の充実 ○心身の健康のための取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や立場を認め合う集団づくりを充実させる。 ・組織的なシグナルチェックにより心の安定を図る。 ・楽しく体力を高める常時活動を充実させる。 	道徳科の内容項目「相互理解、寛容」に関する肯定的な自己評価の割合	—	目標	80%以上	85%以上	90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を受け入れる児童の割合は目標値に達している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がお互いに理解し、コミュニケーションを高めると取組として、帰りの会で3人ぐらいのグループになり、3分間のフリートークを行う。
				—	実績	89.8%				
			体力・運動能力調査の握力、長座体前屈、ボール投げの目標値の達成率	55.6%	目標	70%以上	80%以上	90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・シグナルチェックの結果、14.4%の児童が学校に行きたくない日がある、18.3%の児童が不安やイライラを感じると答えており、4・5年生に多い傾向がある。その原因として、友達関係と答える児童が多くみられる。 ・握力の向上がみられ、業間体育などの取組の成果が出ている。長座体前屈やボール投げの実績不振には、全身の関節の硬さ、自らの体を扱う調整力が低いことが要因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シグナルチェックを学期に1～2回程度実施し、気になる児童や相談を希望する児童には個別面談やスクールカウンセラーの相談につなげる。 ・体育で行う準備運動にペアストレッチを取り入れ、体の柔軟性を高める。 ・業間体育の3分間走とアスレチックを継続して、取り組む。
				—	実績	47.5%				
地域と一緒に、安全・安心な学校づくりを推進する。	○コミュニティ・スクールの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の発足と課題・ビジョンの情報共有をすすめる。 ・学校応援ボランティア等の登録を募る。 	地域との協働による教育活動の件数	7	目標	10以上	12以上	15以上	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明けて制限もなくなり、様々な地域の方々のご協力で充実した教育活動を実施することができている。 ・150周年記念式典に向けても取組中である。・学校応援ボランティア等の登録についてどのように進めるのか検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援ボランティア等の登録の在り方について検討し、学校からの依頼ばかりでなく、スムーズな連携によって協働できる関係をさらに深めたい。
				—	実績	11件				